

2. 水を探る科学者

蔵田延男著
柏葉書院（1948）
B 6 判 p.189
定価 70 円



目 次

まえがき

水のない村（たった一つの井戸、水の来ない水田、天水生活、岩山の上の人々）

水の恩恵（水さえあれば、お米にいる水、電灯も水から、一日にのむ水使う水、水のない工場、給水塔のある風景、水で耕す畑、水ある故に、）

ひでりと洪水（運命の雨、ひでりの神、雨乞い、河の復しゅう、大陸の洪水、天然の肥料公團）

ダムを作る人（河のほとり、貯水地の役わり、湖底に沈む村、地質学者とダム、夢の日本）

地下に住む水（水の世界、水を作る森、地下水の住み家、井戸物語、増やせる国土、働く山羊）

探水行（水探しの名人、科学的な水探し、ボーリングの話、水の観測、富士とたたかう）

紹介コメント

第二次世界大戦後すぐの昭和 23 年に一般向きに話文で書かれた本で、紙質が悪い状態ではあるが内容は現在でも通じるものが多い。私たちの生活が水に依存しているのかを農業や工業など産業や、私たちの飲料、河川水やダム、井戸や地下水という流れで具体的に記載されている。事例も日本だけでなく中国や蒙古などのことも著者の体験を踏まえ多く記載されている。著者は、水理地質の専門家であり、後半では、地下水のしくみとして水理地質構造的なことや電気探査やボーリングによる地下水調査についても、いろいろなものに例えながら分かりやすく記載がされ一読する価値がある。